

第6回医事業務研究会

(DPC勉強会)

●日時 平成28年7月14日(木)

10時～16時05分

●会場 岡山県医師会館 第1会議室

●出席者 37病院62名・委員13名出席

診療報酬とDPC改定についての講演と、DPC実務者によるグループ討論を行った。

講演

診療報酬及び

DPC改定のポイント

～変化する仕組みとその対応～



講師

田辺三菱製薬㈱ 営業本部
中国支店営業部 推進課

大江 和人 主査

平成28年度の診療報酬改定によりDPCの仕組みも変化している。

将来推計によると日本は今後、少子高齢化は勿論だが、その影響からどこで治療して最期を迎えるのが問題になっている。また、国は社会保障・税一体改革関連の考えから各医療機関の機能分化を行い、お互いに競争するのではなく協力する体制を望んでいる。社会保障国民会議の中での具体的な改革ストーリーに沿って進められており、その内容を把握することも重要である。改定の方向性として、制度の抜本的な見直しはなかったが、3回目となる調

整係数の基礎係数・機能評価係数Ⅱへの置き換えが進んだことで、2年後の調整係数廃止に備えた見直しが行われた。DPC病院Ⅱ群の選定に係る実績要件に内科系技術の評価が追加され、岡山県内でもⅢ群からⅡ群の対象となった医療機関もあった。調整係数に関して、廃止される2018年度改定で大幅に収入が変動する可能性があることから、これに対応すべく、診断群分類のさらなる精緻化を目的としたCCPマトリックス(重症度を考慮した評価手法)の試行導入と、調整係数が表現していたと考えられる診断群分類点数表の点数とは乖離してしまう患者(アウトライヤー)への対応分を評価する重症度指数の試行導入が行われた。機能評価係数Ⅱの見直しの中で、来年度から病院情報の公表についても評価を行うことが予定されている。一般の方が医療機関のホームページ等を閲覧する際にそういった情報を公開することで係数の評価にもつながっていく。正確なDPCデータを作成することで正確な分析にもつながるので、各医療機関で対応する必要がある。

グループ討議

討議テーマは「コーディング・データ分析・様式作成」を共通テーマとした。また7グループに分かれ、共通テーマに加えて各グループ内でも実務担当者が普

段から抱えている問題点や運用方法など、自由に話し合った。

最後にまとめとして、各グループの討議内容を3分程度で発表した。共通テーマ以外に、DPC委員会の開催回数や運営方法、データ分析のソフト導入の有無や活用方法、持参薬や病院指標等、様々な議論が行われた。

オブザーバーとして講演に引き続き参加いただいた大江氏の意見を求める場面も要所で見られ、大江氏からはデータ分析について「病院全体を見て分析することが重要、マンパワーが足りない病院もあると思うが、今日参加している方が指令塔となり分析にも取り組んでみよう」との話があった。

共通テーマの他に担当者が抱えている問題・疑問についても討議できたと同時に、情報交換により、顔の見える関係が構築されたことが一番の収穫となった。

(医事業務委員 藤井攝雄)



▲グループ討議の様子